

織機改良で薄地強化

丸井織物

コスト抑制 海外製品に対抗

丸井織物（石川県中能登町）は、ダウンジャケットなどに使われる薄地織物の生産を強化する。今期5億円を投資し、織機の

地に大型注文が相次いで、長引く円高の影響で春先から受注が急減した。中国、韓国の安価な製品に注文が流れたという。

生産効率を高める改良に着手。コストを抑制することで、円高影響で割安感が出ている海外製品に対抗する。薄地織物はここ数年、国内外から北陸産

薄地織物を主力とする同社では、競争力を高めるために生産コストの削減を徹底している。宮本徹社長は「ファッションやスポーツ分野で依然として薄地織物の需要があ

今期5億円を投資

グループ会社に
資材生産を移管

また、宮本社長は新商品の市場投入を活発化させる方針を示した。

本社工場で手掛けていた裏地やティーバッグなどの資材事業をグループ会社に移管。本社工場の空きスペース

工場屋根に太陽光をめぐに、3工場の屋根に太陽光パネルを設置する。再生可能エネルギーの「固定価格買い取り制度」を活用する予定。

に新商品の生産設備を導入し、量産を目指す。商品開発室の人員も6人増の25人とした。

工場内の出力50kwの発電設備を置き、スペースを有効活用する。

今夏、工場で発光ダイオード（LED）照明を採用し、照明の電力消費量を7割削減したという。